

「家族療法基礎講座」のお知らせ

一般社団法人日本家族療法学会は、家族療法の普及と人材育成を目指し、研修体制を完成すべく取り組んでおりますが、「家族療法基礎講座」は、その一環として開講されたものです。本講座は以下の9講座で構成されます。各講座の講師は、その領域の第一人者に務めていただき『家族療法テキストブック』に沿って、家族療法の理論や基礎概念を学べる内容となっております（なお、この基礎講座は「認定ファミリー・セラピスト」の認定要件になります）。みなさまのご参加をお待ちしております。

※なお、新型コロナウイルスの感染予防のために、2022年度は第1回から第3回をオンラインでの開催に切り替えます。ご理解のほどよろしく願いいたします。

●2022年度「家族療法基礎講座」プログラム

第1回	5月15日(日)	10:00~17:00	「家族療法概論 ―基礎試論と歴史」
第2回	6月12日(日)	10:00~17:00	「多世代伝達モデル」
第3回	7月24日(日)	10:00~17:00	「構造的モデル」
第4回	10月16日(日)	10:00~17:00	「コミュニケーション・モデル」
第5回	11月6日(日)	10:00~17:00	「ミラノ・システムック・モデル」
第6回	12月4日(日)	10:00~17:00	「対象関係論的・力動精神医学モデル」
第7回	1月8日(日)	10:00~17:00	「ナラティブ・セラピー」
第8回	2月12日(日)	10:00~17:00	「家族心理教育」
第9回	3月12日(日)	10:00~17:00	「バイオサイコソーシャル・モデル」

●会場：飯田橋レインボービル（東京都新宿区市夜船川原町 11 電話 03-3260-4791）

*第1~3回はzoomでのオンライン開催となります。

●定員：30名程度

●参加費【毎回】会員 7,000 円/非会員 10,000 円/学生 5,000 円

●申し込み方法 日本家族療法学会ウェブサイトのフォームからお申し込みください。2022年度は、開催日時の1か月前~1週間前が申し込み期間となります。

※この講座は、臨床心理士のポイントになります。

●問い合わせ先 一般社団法人 日本家族療法学会事務所 東京都千代田区一橋 1-1-1 パレスサイドビル（株）毎日学術フォーラム内

TEL：03-6267-4550/E-mail:maf-jaft@mynavi.jp

○「家族療法基礎講座」内容

講座番号①「家族療法概論—基礎理論と歴史」

[講師] 榎林理一郎

内容—家族療法とはどのような臨床領域なのか、概論および基礎理論と歴史を学ぶ。

講座番号②「多世代伝達モデル」(多世代家族療法)

[講師] 中村伸一

内容—マレー・ボウエンの創始した多世代の家族を視野に入れた家族療法は、その後、ジェノグラムの表記法の発展や家族ライフサイクルの視点を加味しながら、多世代家族療法と呼ばれ今日に至っている。講座では、ボウエンのオリジナルな発想の起源といくつかの重要概念を解説する。さらに、ジェノグラムの表記法について簡単に触れ、ジェノグラムを用いた多世代家族療法のDVDを聴取しながら、このアプローチのエッセンスを解説したい。最後に、このアプローチの効用と適用について参加者と討論したい。

講座番号③「構造的モデル」(構造派の家族療法)

[講師] 中村伸一

内容—まずは創始者であるサルバドル・ミニユチンの生い立ちと、その生い立ちゆえにたどり着いたともいえる構造派家族療法の理論と思想とをミニユチンのDVDを視聴しながら学ぶ。その後、この学派の鍵となる諸概念と介入の特徴を解説する。さらに実際の構造派の考え方に基づいたミニユチンによるスーパービジョン・セッションのDVDを解説を加えながら視聴する。最後に私の行った円環的質問法を用いて家族構造を査定し、家族と学校システムに介入した奇異な行動を示していた中学生女子との初回セッションのDVDを見ながら構造派の視点から解説する。

講座番号④「コミュニケーション・モデル」

[講師] 村上雅彦

内容—コミュニケーション・モデルは、独特の介入技法を持ったアプローチです。家族療法テキストブックに沿って講義・演習を行います。

講座番号⑤「ミラノ・システムック・モデル」

[講師] 吉川 悟

内容—ミラノ派のアプローチは、現在最も注目されている「オープンダイアローグ」の入り口となった手法であり、かつMRIの発展ともされています。複雑な手続きと、理論的背景を持つアプローチですが、できるだけ簡便に活用の要点を演習します。

講座番号⑥「対象関係論的・力動精神医学的モデル」

[講師] 渡辺俊之

内容—外的、現実的家族に介入するとき、家族メンバーの心にある対象関係も動きます。狩野は、家族療法家はシステム論と力動精神医学の二つの視点による複眼視的なとらえ方が治療の幅を広げると述べました。心の中にある父親表象や母親表象が現実の家族や生活の中でどのように作用するかを一緒に考えていきましょう。

講座番号⑦「ナラティブ・セラピー」

[講師] 小森康永

内容—ホワイトとエプストンのナラティブ・セラピーに加え、アンダーソンとアンデルセンのアプローチについて、技法だけでなくその認識論などもわかりやすく解説。ゲスト・スピーカーに『会話・協働・ナラティブ』の共訳者、奥野光、矢原隆行の両氏を予定。

講座番号⑧「家族心理教育」

[講師] 後藤雅博

内容—家族心理教育は、様々な持続的な困難を抱える家族を支援するための構造化されたプログラムです。その構造は、問題についての情報を共有すること(教育的部分)と問題から生ずる困難さに対処する技能を学ぶこと(対処技能部分)からなり、目標を家族のエンパワメントにおくことが特長です。講座は講義と演習からなり、家族グループおよび単家族への心理教育を学びます。

講座番号⑨「バイオサイコソーシャル・モデル」

[講師] 渡辺俊之, 上別府圭子

内容—システム理論をベースにしたバイオサイコソーシャル(BPS)な視点からの対象理解は、医療、看護、福祉、教育などすべての領域で重要となります。エンゲルが唱えたバイオサイコソーシャルアプローチを家族療法、家族看護の立場から紹介します。